

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成						
重点目標		・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	主体性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に行動し、遊び込む子どもを育成する保育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び込む姿を捉えたエピソードをもとにカンファレンスを行い、遊び込みにつながるポイントを見い出す。 ・園庭の環境を職員間で話し合い、子どもが主体的に活動できるように工夫するとともに実際の姿から環境を再構成する。 ・他園の研究会に参加し、子どもの主体性を育む保育について学ぶ。 ・隣接する小学校の校内研究会等に参加し、互いの教育について学び合い、教師間の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「子どもは、やりたいことを見つけ、意欲的に遊ぼうとしている」などの回答の結果が90%以上になる。 ・遊び込む子どもの姿を捉えたエピソードのカンファレンスを学期に2回ずつ(3学期は1回)行う。 ・園庭の環境図をもとに職員間で2週間に1回、話し合いの場をもつ。 ・共同研究園の園内研に年間4回以上参加すると共に、その中で協議会に参加し、学びを深める。 ・池尻小学校等の校内研究会に年間5回以上参加し、小学校教育についての理解を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの肯定的評価が、97%であった。 ・年間計画に基づき、遊び込む子どもの姿を捉えたエピソードのカンファレンスを1.2学期は2回ずつ3学期は1回行う事ができた。 ・園庭の環境図をもとに、職員間で話し合いの場をもつことができたが、遊びの様子に応じて、間隔が空くこともあった。 ・共同研究園園内研究会に年間4回以上参加する事ができた。 ・園内で、互いの保育を見合い、協議することで自分の保育に生かせるような園内研を実施することができた。 ・池尻小学校の校内研究会へは4回参加することができた。参加した中では、新たな視点での学びや小学校での子どもの育ちを捉えることができた。 ・小学校に親しむ機会がたくさんあったことで、教師同士の連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード作成の年間計画を共同研究園全体で見直し、回数、頻度の調整を行う。また、カンファレンスが短時間でもより学び合いにつながるものになるように、カンファレンスの視点をより明確にしていく。 ・園庭の環境図を用いての話し合いの後に、作業をして環境構成をできる時間をセットにして園務日程に計画する。 ・自園での園内研は自分たちの学びたいことをもと年間計画を立てる。 ・池尻小学校との連携をより図り、実施日時の確認を早めに行い確実に参加できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における遊びは、子どもを放っておいて遊んでいるわけではない。子どもの主体的に遊び込む子を育てるために、ねらいがあり、計画、実践、評価があることがよくわかった。これからも、子どもの主体性を育むための保育を実践していくことを期待する。
	インクルーシブ教育の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた適切な援助を計画、実施しに育ち合う保育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援対象児に対し実態把握表を作成するとともに、個別指導計画の様式の見直しを行う。 ・特別支援対象児だけでなく、すべての子どもにとってわかりやすいユニバーサル保育を実践する。 ・職員間の情報交換、情報共有を大切にし、一貫した支援方法を行う。 ・子どもの発達を促すための方法について保護者啓発を行う。 ・必要に応じて巡回相談や専門機関など、外部機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「一人一人の子どもに愛情をもってかかわり、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合うようにしている」の回答の結果が90%以上になる。 ・実態把握表に基づいて個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援する。 ・一人一人の子どもに対する支援や情報を月2回、職員間で検討し、実践する。 ・学期に1回、園内掲示により、特別支援教育について発信する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、外部と連携を図り、職員間で共有し実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、98パーセントの肯定的な回答を得た。 ・実態把握表を基に個別指導計画を作成し、職員間並びに保護者共有を行い、子どもにとってより良い支援につながるように心掛けた。 ・一人一人の子どもの様子や支援方法についての担任・担当者間話し合いを月2回以上園務日程に位置づけた事で共通理解して支援することができた。 ・学期に1回、園内掲示により、言語発達や身体機能の発達を促すための具体的な情報を発信する事で、園全体の保護者に感心を持ってもらう事ができた。 ・総合教育センターの医療心理相談や伊丹特別支援学校のコンサルテーションを利用し、職員間で共有し実践した。また、民間の療育機関との連携もできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達に応じて、向き合う援助や寄り添う援助、見守る援助などを実践する。また、一人一人が最適な環境となるよう支え、協同的な学びを推進する。 ・今後は、担任・担当者間で共有した情報を会議等で話し合う事により、園全体で共有できるようにしていく。 ・保護者支援を続け、園全体でより良い支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達に応じたかかわりは様々であり、その分保護者の悩みも尽きない。保護者に寄り添った協力をしていくことが大切である。 ・園内掲示を全家庭に対してすることで、インクルーシブ教育への理解度が高まっていく。
豊かな心と健やかな体の育成	豊かな心を育む道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情の育成や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中で一人一人を十分に認め、自分のよさ、友達のよさに気付き、互いに思いやりをもって接することができるような保育を実践する。 ・子どもの内面を読み取り、安心して自己発揮できるような保育を実践する。 ・動植物の飼育、栽培を通して命の大切さに気付き、愛情深く関わり、思いやりの気持ちを育む。 ・身近なものに対しても、大切に扱おうとする気持ちを育む。 ・教師自身の道徳性を高め、研修や啓発誌を通し人権意識を高めていく。 ・DVD研修・人権啓発を通して教師が学ぶ機会をもち人権意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「子どもは、自分を大切にし、他を思いやる気持ちをもつことが出来るようになってきている」の回答の結果が90%以上になる。 ・子どものありのままの姿を受け止めることで自尊感情を育み、相手の気持ちに気付いたり自分の行動を振り返る機会を作る。 ・子どもと生き物の飼育をしたり、栽培を通して命の大切さに気付けるような保育を実践する。 ・物の大切さを知らせ丁寧に扱うことに意識がもてるように教師自ら手本となり実践できるようにする。 ・研修会や教師間で各種人権に関わる資料を供覧し、自らの気付きを実践に活かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、96パーセントの肯定的な回答を得た。 ・一人一人の子どもも育ちを大切にしているという回答を受け、今後も個々の育ちを受け入れ安心できるように関わる。 ・動植物の飼育がしやすい環境をつくったことで自ら関わる機会が増え関心をもつようになった。 ・ものに対して大切に扱えるように、壊れたものを直したり保育の中で目に見えない心の教育を実践していく。 ・阪神地区人権・同和教育・伊丹市同和教育の実践報告、参加を行い教師の学びを深めることができた。 ・学級懇談会で自己肯定感に関する研修会を行い、保護者と共に学びを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心して園生活を送ることができるように、個々の思いに寄り添いながら、環境の工夫や関わりを行っていく。 ・教師自身の人権感覚を高めるために今後は、職員同士が保育の中で気になったことを淀みなく声を掛け合えるような風土をより一層作っていく。 ・研修会に参加したり、刊行誌などを読んだりして学び続ける姿勢を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切する中で、環境の関わり工夫が必要だろう。 ・生き物や花などを育て命の大切さに気づける環境になっていることがよい。
	健康教育の充実(健やかな体づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を確立し、自らの健康について関心をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や熱中症など自らの健康に関心をもつことができるようなほけんのはなしの時間を設けたり保育を実践したりする。 ・ほけんだよりやけんこうカレンダーなどを通して、保護者啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「自らの体について関心を持ち、健康を意識して行動するようになってきている」の回答の結果が85%以上になる。 ・月1回発達段階に応じたほけんのはなしを実施し、内容をホームページに掲載する。 ・日々の保育の中で意識して手洗いうがいなど丁寧にすることができるよう、掲示物などを工夫する。 ・月1回ほけんだよりを発行し、学期に1回以上けんこうカレンダーを実践することで、家庭と連携しながら子どもの健康への関心を高めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果が83%だった。目標の85%を下回っており、基本的な生活習慣が身につけてきていると保護者が感じられるような関わりが必要である。 ・月1回のほけんのはなしの実施、ホームページに内容掲載は出来た。 ・日々の保育の中で手洗いうがいなどを意識して丁寧に出来るように掲示物の新調や工夫が必要である。 ・月1回のほけんだよりは発行できたが、けんこうカレンダーは長期休みしか実施出来なかった。また、未提出もみられた。家庭と連携できるツールとして、回数を増やせたら良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたほけんのはなしの継続、話した内容を玄関前に掲示するなどして、家でタイムリーに話ができるような工夫をし保護者啓発に努める。 ・また、各クラスでも基本的な生活習慣について見直し、子ども達に啓発していく。 ・子どもにとって分かりやすく心にしっかり届くような掲示物について、より工夫する。 ・けんこうカレンダーの提出率が100%となるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のアンケート項目の内容が抽象的でわかりにくいのではないかと。 ・子どもだけへの指導だけでなく、保護者に対して健康教育を啓発していることで、子ども自身が自らの健康に関心向けやすい環境が作られていくのだろう。
開かれた園づくり	園情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ○園の情報発信を工夫し、園教育の理解を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通して、園生活の様子を発信する。 ・クラスだよりや幼稚園だよりを通して、子どもの育ちや学びを具体的に伝える。 ・掲示板に各クラスの保育写真を掲示し、リアルタイムに保育を保護者に啓発できるようにする。 ・Google classroomを情報の発信源として使用し、保護者にとって身近なものになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「クラスだよりや、ドキュメンテーション(保育の写真掲示)、動画配信、いけじり幼稚園だより、ホームページなどを通じて、教育方針や活動内容を知っている。」の回答の結果が90%以上になる。 ・月4回以上ホームページを更新する。 ・保育の様子を担当が3日以内にホームページを更新する。 ・クラスだよりを参観日、参観ウィーク前に配信し、保育内容や大切にしていることを伝える。 ・クラスだよりを月1回以上発信し、日々の子どもたちの様子を配信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果は96%と肯定的な意見だった。 ・ホームページの回数は平均して月に10回程更新できた。しかし、3日以内の更新ができていないこともあった。 ・クラスだよりはタイムリーに配信できた。また、内容に応じて動画配信、ドキュメンテーション、クラスだよりだけではなく、動画配信や玄関掲示等、配信の仕方その都度考えて発信できたことは良かった。保育内容について読んでもらいやすく、伝わりやすい工夫には課題が見られた。 ・保護者が動画配信を楽しみにする反面、通知がないことにより、見逃すという声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの回数は計画をもって取り組む。また、更新の仕方等を再度工夫しタイムリーに伝える方法を今後も検討する必要がある。 ・今後はクラスだよりだけではなく、学級懇談で伝えたり、動画配信を活用したりして保育で大事にしていることを伝わりやすいように配信し、保護者と共に連携していけるようにする。 ・動画配信後に玄関掲示にて動画配信をしたことを知らせることで広く見てもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報などの注意すべき点はあるものの、保護者が関心をもって関わろうとするような発信を今後も継続していくとよい。

○学校関係者評価総括
職員が連携して教育活動にあたっている。主体性を大切に教育をしていることがよく伝わってきた。
○次年度に向けた重点的な改善点
一人一人に応じた丁寧な保育の実践を積み重ね、更なる質の向上を図っていく。